

令和4年度「全国学力・学習状況調査」本校の結果について

南丹市立美山小学校

令和4年4月19日(火)に6年生で実施した令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校で分析をした結果、本校児童の傾向が概ね把握できましたのでお知らせするとともに、今後、本校では、成果と課題を受けて、改善活動に取り組み、児童に「確かな学力」を身につけさせていきたいと考えています。

【1】概要について

|      |                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 実施日  | 令和4年4月19日(火)                                                                      |
| 調査内容 | (1)教科に関する調査<br>・国語(14問)    ・算数(16問)    ・理科(17問)<br>(2)質問紙調査<br>・生活習慣や学習環境に関する質問調査 |

【2】本校の結果について

本校の状況を正答数と全国の平均正答数との差で表します。

|         |      |
|---------|------|
| 国語(14問) | 同程度  |
| 算数(16問) | やや低い |
| 理科(17問) | やや低い |

| 本校と全国の<br>平均正答数の差 | -2題 |      | -1題 | 0題  | 1題   | 2題 |
|-------------------|-----|------|-----|-----|------|----|
|                   | 低い  | やや低い |     | 同程度 | やや高い | 高い |

【3】学力について

**国語の課題**(全国平均と比較して正答率の低かった項目)

- ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること
- ・表現の効果を考えること
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと

◎全国の平均と比較して概ね同程度であったが、「条件に合わせて書くこと」「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」に課題がある。

## 算数の課題（全国平均と比較して正答率の低かった項目）

- ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること
- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること
- ・百分率で表された割合を分数で表すことや、比較量を求めること
- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないこと
- ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること
- ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ること
- ・加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述すること
- ・図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解すること
- ・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断すること

◎どの領域も全国平均よりも正答率が低い部分があるが、特に「数と計算」領域、「変化と関係」領域についての正答率が低い。生活経験と重ねて考えたり、理由などを記述したりすることに課題がある

## 理科の課題（全国平均と比較して正答率の低かった項目）

- ・情報を選択し、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持ち、その内容を記述すること
- ・提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つこと
- ・メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けていること
- ・自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持つこと
- ・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録すること
- ・水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解していること

◎どの領域も全国平均よりも正答率が低い部分があるが、特に「生命」を柱とする領域についての正答率が低い。複数の情報から自分の考えをまとめることに課題がある。

## 【4】学習状況について

### 児童質問紙調査結果

#### <本校の傾向>

- ・地域や社会への関心や行事の参加など、地域との連携・協働に関わる項目について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。
- ・自尊感情に関わる項目について、肯定的な回答は全国平均よりやや少なかった。
- ・ゲーム（携帯電話、スマートフォンを含む）をする時間は、全国平均よりも長い。

#### <全国集計値より低い項目>

- ・自らの学習に計画を立てて見通しを持ったり、課題解決に向けて自分で考えたりすることについて、肯定的回答が少ない状況にある。
- ・話し合い活動等を通して、友達の意見を最後まで聞いたり、自分と違う意見について考えたりすることに対して苦手意識がある。
- ・学習に対する興味関心について、3教科とも低くなっている。

◎ 基本的な生活習慣は概ね身に付いているが就寝時刻や起床時刻が定まっていなかったり、ゲームの時間が長くなったりしていることが懸念される。地域・社会への参画などは全国と比較しても高くなっている。一方で、自分の考えを表現したり、他者の考えと自分の考えを比較したりして学びを深めることについては課題がある。学習意欲が低い傾向にあり、学力定着の面での課題が見られる。実際の生活の中で学習したことが活用できることを意識できる、主体的な学びにつなぐ指導の充実が必要である。

#### 【5】学力課題克服に向けた方策

今回の結果分析を通して、本校児童の学力課題として挙げられる点について、以下の方策を講じ、課題の克服を目指しています。

#### <教科指導に関して>

- ・日常生活のあらゆる場面で、必要な事柄を自ら説明できる力を高めていくことを全教職員で共通確認し、その機会を充実させる。
- ・話し合い活動のねらいを明確化し、児童が自分事として課題を意識できるようにするとともに、考えや意見を述べたり、相手の考えや意見と自身のそれを比較させたりする学習活動を充実させる。
- ・目的や意図に応じ、必要な内容を取捨選択し、整理して書く指導の充実を図り、伝え合う活動を充実させる。
- ・漢字や成句の持つ意味を考えながら、学習した言語事項について積極的に用いて、文や文章の中で正しく使うことができるように指導する。
- ・ことばの力育成指導員や読書ボランティアと連携し、日常の読書量を確保し、本に慣れ親しませるとともに、児童の語彙を増加させる。
- ・ICTを授業に有効に活用して、授業のユニバーサルデザイン化を推進し、個に応じた指導により学習効果を高める。
- ・言葉や式を用いて表現する指導を充実させ、算数のノート指導を通して問題解決に用いる情報を書き込み、それらを組み合わせることで解決の筋道を明らかにし、その上で言葉や式を使って説明できるように指導していく。
- ・日常生活での事象や、他の教科での場面を取り上げ、その中にある数量関係から規則性を見つける活動を行う。
- ・自然事象について、観察、実験などで得た結果を他者の気付きの視点で分析したり、解釈したりして、自分の考えがもてるようにする。
- ・放課後補充教室「美山わくわくスタディ」等の機会を活用して、個々のつまずきを系統的に補完できる機会を設定し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。

＜家庭学習との連携＞

- ・「家庭学習の手引き」を利用するなどして、学習の内容について質的な見直しを行い、授業とよりリンクしたものとして充実させていく。
- ・日々の反復練習によるものだけでなく、自主学習の取組を継続し、児童の主体性を伸ばし、学習意欲の向上を図る。